

第 302 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 平成 26 年 6 月 10 日 (火) 11:50～13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取合評 [番組名] K-mix RADIOKIDS
[放送日時] 平成 26 年 5 月 26 日 (月) 15:08～18:55
[出演者] DJ Roni
4. 出席者 [委員] 委員長 出口泰規 副委員長 谷川真美 委員 山本りさ
委員 木宮敬信 委員 小野晃司
[会社] 代表取締役社長 祐嶋繁一
常務取締役放送事業本部長 上野豊
放送事業本部副本部長兼編成制作部長 久保田克敏
編成制作部次長 安田信章
編成制作部副部長 寺田和史

5. 事務局報告

- 6 月 5 日、株主総会の報告
- 6 月 2 日～8 日、聴取率調査実施の報告
- 「ラジオって、あったかいね。」エピソード募集、発表について
- V-LOW マルチメディア放送計画の現状について
- AM 局の FM 波活用計画の現状について

6. 番組審議

[対象番組] K-mix RADIOKIDS

[放送日時] 平成 26 年 5 月 26 日 (月) 15:08～18:55

[番組内容] 音楽の力を信じ、パワフル&ナチュラル・トークでリスナーに語りかける DJ Roni が静岡の夕方を彩る。番組はリスナーとのコミュニケーションを重視しつつも音楽面での発信力をアップ。子供時代の心を忘れない Positive & Active Mind を持ち続けているラジオが大好きな人達に向け、好奇心や遊び心、元気さを刺激する“ちょっとだけカッコイイ”番組を届ける。

[聴取・合評での主な意見]

小野委員 Roni さんは、テンションは高いが、抑揚をつけるのがうまい。情報を提供するというより、人と人のつながりを意識して、ゲスト、リスナーが持っている価値を引き出す力がある。言葉遣いは荒いが、それを徹底して、個性を出していると思われる。

山本委員

前回審議した時には、あまりに勢いがありすぎる感じがした。こちらが慣れてきたこともあるが、パワフルで早口ではあるが聴いていてあまり疲れなくなった。また、「ヒューマンアカデミー」のコーナーのインタビューでは、他のパートよりトーンを落としていて聴き易い。全体的にがさつな感じはするが、人間味がある。本人による街頭中継は、街頭の人に、何をやっているのかが分からないと思う。

木宮委員

Roni さんが番組に慣れてきた感じがする。前回試聴した時は、以前この時間で放送していた「Radio the Boom」を引きづっていたが、良くも悪くも彼女の番組になってきたと思う。彼女のトークは好き嫌いが分かれると思う。ワル乘りの部分や一人芝居などは、長くこの番組を聴いているリスナーからすれば「また Roni がバカをやっているな」と受けとめてもらえると思うが、初めて聴いたり、普段あまり聴かないリスナーには抵抗があるだろう。だんだん慣れてくればその良さが分かってもらえる、というところか。「ヒューマンアカデミー」のコーナーは、10分と長い割には、何をリスナーに伝えたいのかがわからない。特に今回のカラーセラピーの話題は、一般のリスナーにはなじみの少ない資格や仕事なので、この内容でどれだけのリスナーがイメージできたのか疑問だ。この放送を聴いて体験教室に行こうとは思わないのではないか。街頭中継は、企画としては面白いが、内容としては何のために外に出たのかが分かりにくい。外に出て言っても、ドライバーや通行人はすぐに彼女がラジオDJ だとは分からないだろう。彼女を街頭に露出する意味が分からない。仮に中継をするのであれば彼女ではなく、別のレポーターを立てて、Roni さんがスタジオでそのレポーターとやり取りをするというスタイルの方が分かり易い。「ダーツ」のコーナーも、テレビだと面白いのだろうが、ラジオの場合、その状況をリスナーに説明しなければリスナーに内容が届きにくい。

谷川副委員長

Roni さんのおしゃべりは早口だが、淀みがなく聞き取り易い。ただ、ゆっくりしゃべるところでは語尾がのびるのが気になる。また、間の取り方は夜の放送っぽいところがある。「ダーツ」や街頭中継のパートは状況の説明がないので聴き辛い。改善の余地がある。「ヒューマンアカデミー」のコーナーはやはり長く感じる。冗長さを感じさせないやり取りの仕方を考える必要がある。

出口委員長

SE の笑い声はなくてもよい。「街頭中継」を聴いていると、Roni さんはスタジオから出た仕事をあまりしたことがないのでは、と思う。聴いて何をやっているのかが伝わらない、お粗末という感じがする。し

ゃべりが乱暴でリスナーを突き放したような言い方だ。威勢のよさはあるが、しっとりとした感じがない。いろいろな経験を積んできていて、引出しをたくさん持っていると思うので、それを開けて、リスナーのメッセージに対して一言加えるだけで味わいが出ると思う。自分の向こう側にリスナーがいるということを意識してみることが必要だ。今の状態はたとえて言うなら「突っ走って、自分が土俵を割ってしまったことに気づかない」という感じで、危うさを感じる。

会社サイド

前回（第 301 回）では、パーソナリティの掛け合いのよさの向上などを評価していただいた一方、リスナーのメッセージを紹介するにとどまらない情報の提供や、内容のメリハリのつけ方などについてご意見をいただきました。いただいたご意見は番組作りの参考とさせていただきます。今回（第 302 回）ご指摘いただきました点につきましても、今後の番組作りに反映させ、改善するようにいたします。

次回開催日 平成 26 年 7 月 8 日（火） 11:50～13:30 を予定

以上

番組審議会委員長

出 口 泰 規